



職場の  
メンタルヘルスと法  
比較法的・学際的アプローチ  
三柴 丈典



## 職場のメンタルヘルスと法 比較法的・学際的アプローチ

著者：三柴 丈典 発行：法律文化社 定価：6,380円(税込)

本書は、2011年から2013年にかけて実施された欧米6カ国の産業精神保健法制度の比較調査(厚生労働科学研究事業)とそのフォローアップ調査を踏まえ、日本との比較と考察を詳述し、そこから示唆される職場のメンタル不調への予防的法制度の提言までをまとめた壮大な書である(イギリスで2020年に英書が出版されている)。

各国の法制度(イギリスのストレス管理基準、フランスのアンチハラスメント法制、アメリカの障害者差別禁止法等々)、日本の法制度・行政施策、裁判例の動向、社会調査結果、経営学や社会学に基づくレビューなどで多面的に構成されており、必ずしも科学的根拠が多くないこの分野で、あるべき産業精神保健の姿を国際的・

学際的に議論したきわめて意欲的な研究書といえる。

実務家にとってはやや歯ごたえが堅い部分もあるものの、教条的な法制度がむしろメンタル不調を増加させる可能性を指摘し、立法論としてはガイドラインなどソフト・ローによる誘導などを提言しつつ、目標とする健康状態を理想化せず、「納得性を重視」した対話の体制づくりを提言するなど、実務的な意味でも示唆が豊富なものとなっている。

2020年に発足した「産業保健法学会」(<https://jaohl.jp/>)は、本書の内容もその知的基盤のひとつとなっており、これからの産業保健のモデルを展望する場として期待されよう。

はやし みきひろ  
林 幹浩

(株式会社ビスメド代表取締役/産業医・産業衛生専門医)